経営意思決定を高度化する

シナリオプランニング / 企業インテリジェンス基盤構築支援

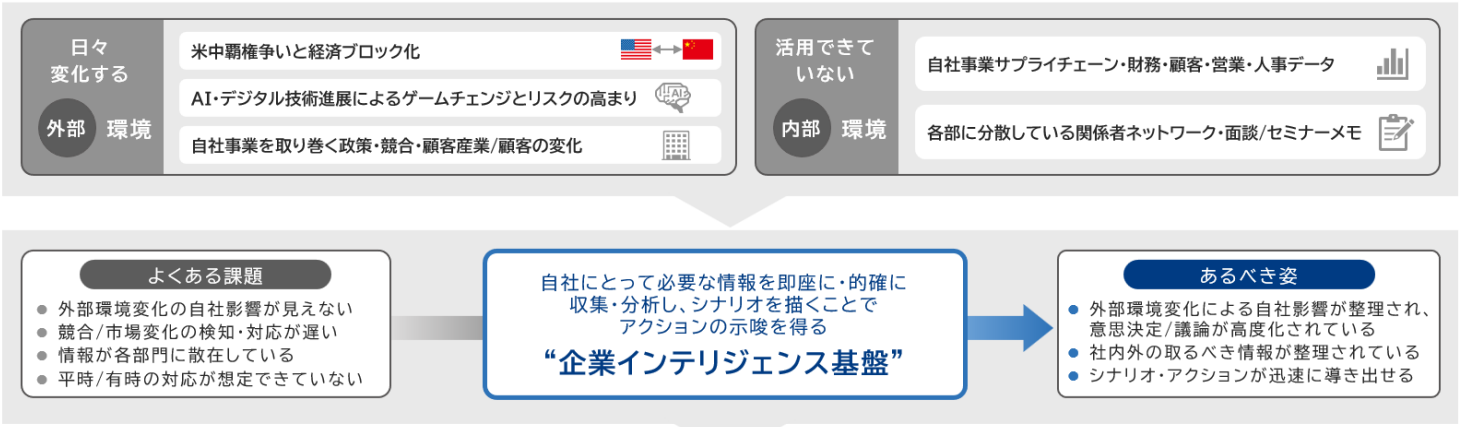


変化を捉えるだけで終わらせず、自社影響の見立てと打ち手に変える。

地政学・政策・市場・技術の変化が複雑に連鎖し、企業を取り巻く前提は短期間で揺らぐ時代になっています。こうした環境下では、情報を個別に収集するだけでは不十分であり、変化をシナリオとして整理し、自社事業への影響を見立て、経営・事業・機能の意思決定へ接続する仕組みが必要です。**MRIは、シナリオプランニングを起点に、テーマ設定、ドライバー/シグナル設計、情報収集・分析、レポーティング、運用定着までを一貫して支援**します。総合シンクタンクとしての将来見通し、産業横断の知見、実装まで伴走するコンサルティング力を活かし、変化に適応できる企業インテリジェンス基盤の構築を支援します。

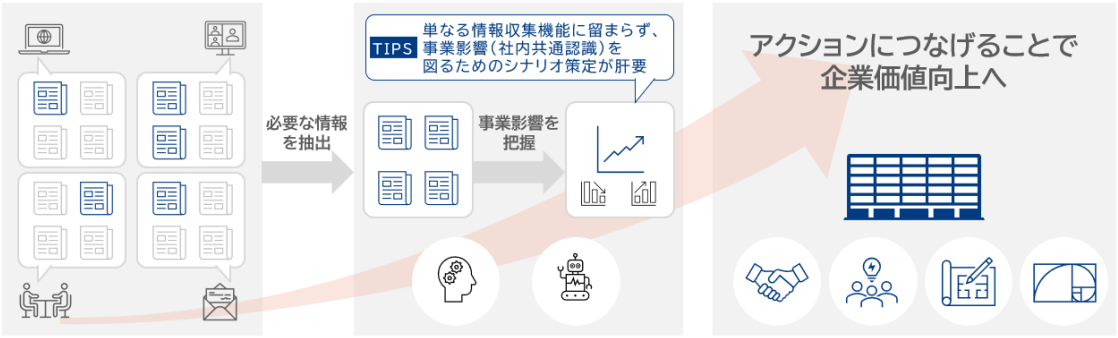
MRIの考える企業インテリジェンス

MRIの考える企業インテリジェンスは、単なる情報収集機能やツールではありません。自社に必要な情報を即座・的確に捉え、事業影響を見立て、シナリオと示唆を通じてアクションにつなげる、組織的な意思決定基盤です。





企業インテリジェンスのイメージ



見込まれる副次的効果

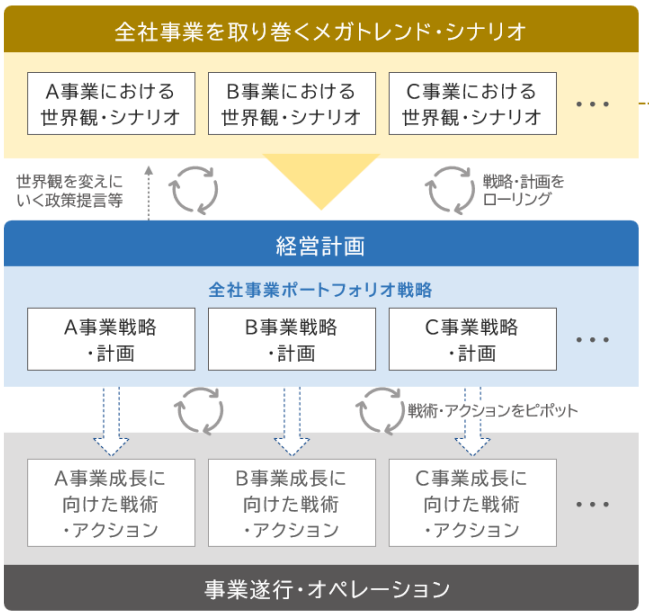
後述の戦略・戦術の見直し等による直接的効果に加えて、企業インテリジェンス活動を通じた

- **俯瞰的・事業横断的な視野の醸成**
- **次世代経営人材育成(サクセッション)**
- **経企/HD等コーポレートと事業部/会社との垣根の解消**

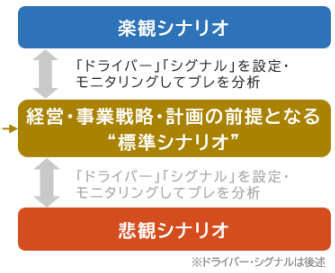
等の副次的効果も見込まれる

MRIのアプローチ

経営・事業戦略・計画の前提となる標準シナリオを置き、そこからのブレを継続的に観測することで、戦略・計画・オペレーションを機動的に見直せる状態をつくります。変化そのものの把握ではなく、シナリオへの影響と事業への示唆を獲得することが肝要です。



▶ 地政学/マーケットインテリジェンスの活用方法 ◀



計画の前提となる**標準シナリオからの“ブレ”を定期/オンデマンドで組織的に観測・事業への示唆を獲得し、“迅速・柔軟・高度”な経営の意思決定とアクション**（含、経営計画・事業戦略・計画のローリング、政策提言、事業遂行・オペレーションへの反映）に活用する仕組み

【よくある課題】

- 中長期経営計画策定時に立てた**事業環境シナリオから情勢が大きく変化**しているが、戦略・計画に反映できていない
- ニュース・動向のシナリオおよび自社事業への影響が掴めていない
- そもそもシナリオプランニングができていない

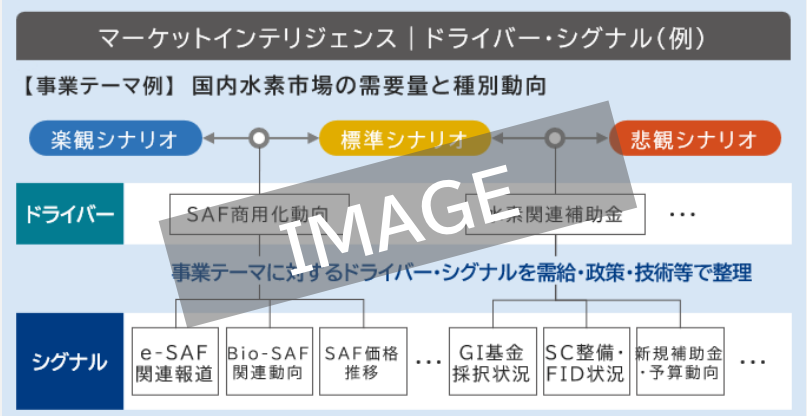
【インテリジェンスを通じて目指したい姿】

- 戦略・計画の前提となる世界観・シナリオを描き、社内で共通認識が醸成されている
- 自社事業に大きな影響のある情報が整理・**シナリオへの影響が分析されており、戦略・計画・事業影響への示唆**が得られている
- 前提が大きく変動した際に、**迅速に戦略・アクション**に活かせている

アウトプット｜シナリオ・テーママップおよびレポートをご提供

意思決定テーマに応じて地政学・地経学やマーケット（例：AI、水素）などの足元の動きと中長期の見立てをインテリジェンスレポートとして提示します。

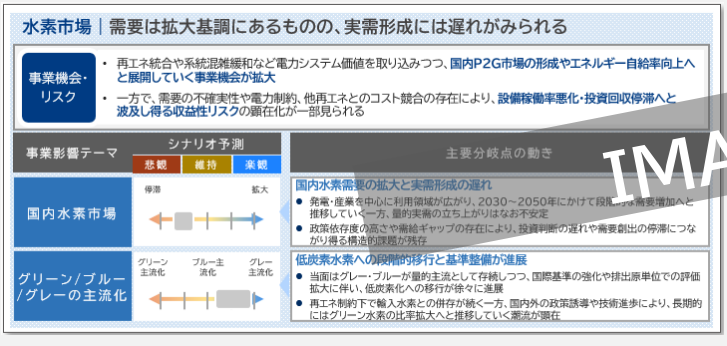
テーママップ

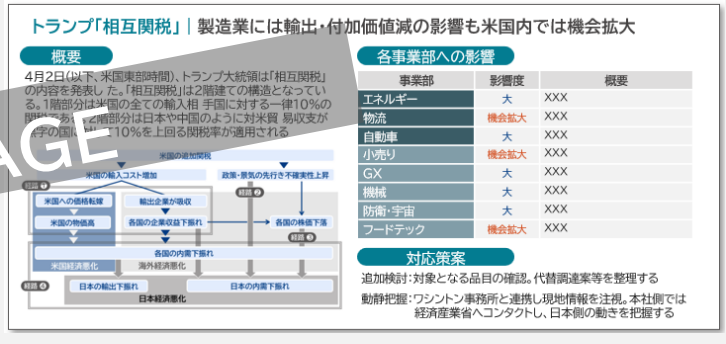


シナリオ策定時には、いずれのシナリオとなるかの方向付け（分岐）を示す“**ドライバー**”と動的に変化するドライバーのポジションを説明する観測可能な情報“**シグナル**”をそれぞれ構造化してテーママップとして提示します

テーママップを持つことで、観測するべき重要情報を組織的に把握することが可能となります

インテリジェンスレポート





本資料に関するお問い合わせ先

株式会社 三菱総合研究所

service@ml.mri.co.jp